

第60期決算公告

貸借対照表(2021年3月31日現在)の要旨

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
資 産 の 部		負 債 の 部	
【流動資産】	4,552,045	【流動負債】	1,868,022
現金及び預金	2,123,566	支払手形	77,847
受取手形	38,294	買掛金	658,429
売掛金	1,287,325	未払費用	304,676
商品	425,180	前受金	14,668
貯蔵品	957	未払金	531,064
前渡金	401,670	預り金	19,455
前払費用	26,123	預り・未払消費税	83,153
前払金	5,901	未払事業所税	3,726
未収入金	159,918	未払法人税等	129,487
立替金	75,367	役員賞与引当金	45,516
為替予約	8,242		
貸倒引当金	498		
【固定資産】	778,172	【固定負債】	77,349
(有形固定資産)	464,189	預り保証金	6,000
建物	27,706	退職給付引当金	49,801
機械装置	7,957	資産除去債務	21,548
車両運搬具	0		
工具器具備品	12,672		
型	259,415	負債の部合計	1,945,371
土地	97,621	純資産の部	
建設仮勘定	58,818	株主資本	3,379,126
(無形固定資産)	14,099	資本金	10,000
電話加入権	2,224	資本剰余金	910,000
ソフトウェア	11,875	その他資本剰余金	910,000
(投資その他の資産)	299,883	利益剰余金	2,459,126
投資有価証券	6,700	利益準備金	12,090
出資金	24,610	その他の利益剰余金	2,447,036
繰延税金資産	179,745	別途積立金	400,000
差入保証金	12,050	繰越利益剰余金	2,047,036
長期前払費用	76,778	評価・換算差額等	5,720
		繰延ヘッジ利益	5,720
		純資産の部合計	3,384,846
資産の部合計	5,330,217	負債・純資産の部合計	5,330,217

個別注記表

重要な会計方針

1. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)によっております。

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、2007年3月31日以前に取得した資産については旧定率法)を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっており、主な耐用年数は次の通りであります。

建物	15年
機械装置	9年
車両運搬具	6年
工具器具備品	4年～20年
型	2年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっており、主な耐用年数は次の通りであります。

ソフトウェア(自社利用分)	5年
ソフトウェア(販売目的分)	3年

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、当事業年度末における年金資産の見込額が退職給付債務の見込額を超過している場合は、前払年金費用として貸借対照表に計上しております。

また、数理計算上の差異については、発生の翌年度より14年(各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内)で均等償却しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ... 為替予約

ヘッジ対象 ... 外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

事業活動及び財務活動に伴う為替変動によるリスクを低減させることを目的としております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ有効性の判定は、原則としてヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、ヘッジ手段とヘッジ対象の資産・負債または予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、有効性が100%であることが明らかであるため、有効性の判定は省略しております。

6. 消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は税抜き方式によっており、控除対象外消費税等は当事業年度の費用として処理しております。

7. 連結納税制度の適用

株式会社バンダイナムコホールディングスを連結親法人とした連結納税制度を適用しております。

8. 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 1,840,000 株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(円)	1株当たり配当金(円)	基準日	効力発生日
2020年6月9日 (定時株主総会)	普通株式	1,406,080,000	764.17	2020年3月31日	2020年6月10日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(円)	1株当たり配当金(円)	基準日	効力発生日
2021年6月9日 (定時株主総会)	普通株式	426,420,000	231.75	2021年3月31日	2021年6月10日